

教えて Part2

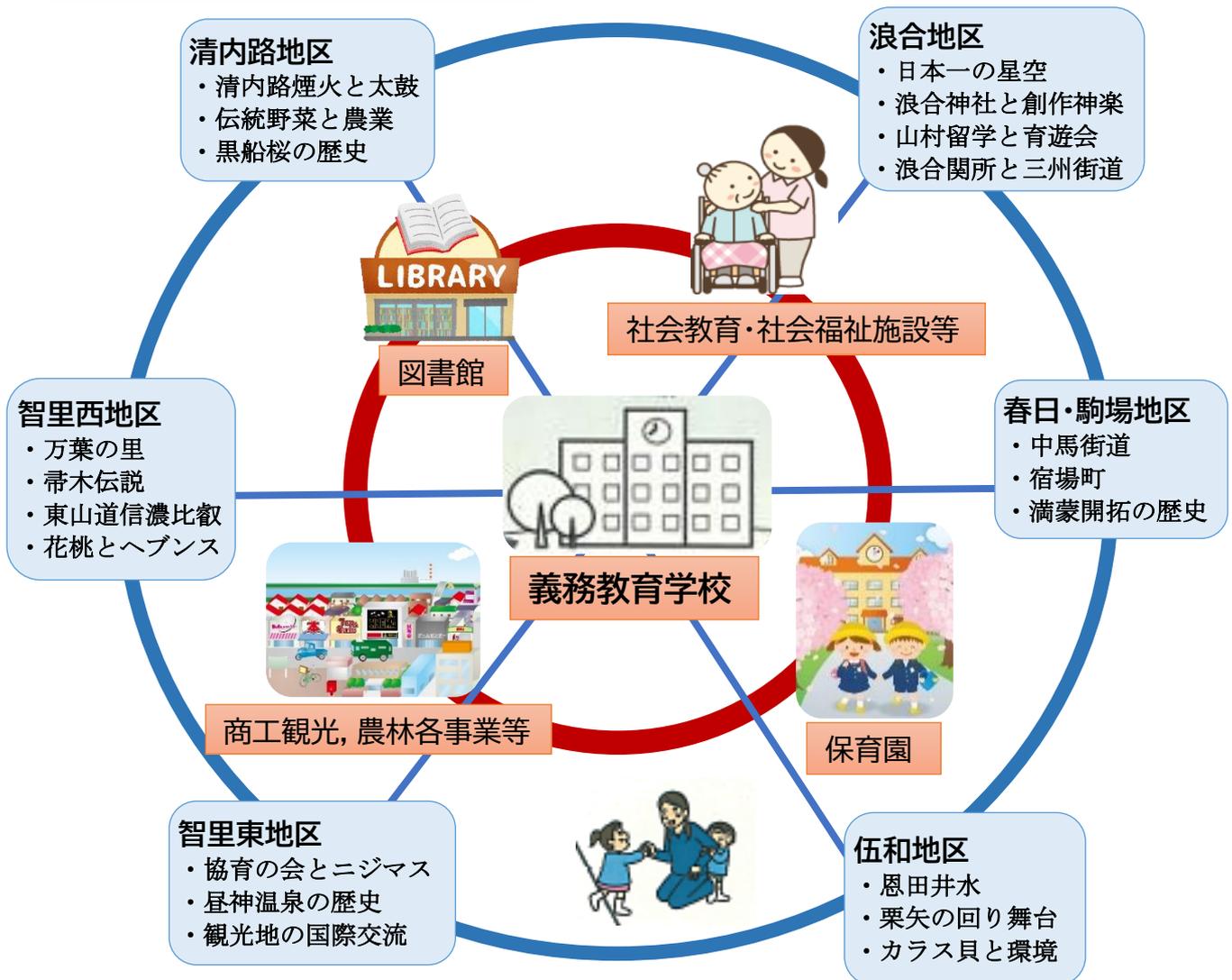
学校のあり方検討委員会「中間まとめ」

阿智村スクールコミュニティ構想

阿智村教育委員会

今月は、学校を学びの核として、地区に出かけて学びを深め、地区の皆さんが学校に立ち寄り学校を支え、阿智村で学んだ子どもたちが将来阿智村を育てることを願う阿智村スクールコミュニティについての疑問や質問にお答えします。

Q1 「学びのコミュニティ」とは？



Q2 「阿智村地域探究学習」の具体例は？

義務教育学校で学ぶ児童生徒が、春は智里西地区で花桃とヘブンス、夏は浪合地区で日本一の星空、秋は清内路地区の煙火と太鼓など、季節に応じて学ぶことができます。また、智里東地区のニジマス学習や駒場宿と中馬街道など、阿智村の歴史や自然を学年段階に応じて学ぶこともできます。

村内各地区の特色ある学びを体験し合い、児童生徒が自らの興味や関心を追究することで主体的に学びを広げ、地域のコミュニティの一員としての意識を育みます。

Q3 これからの学校に必要な施設や設備は？

学びのコミュニティの核となる学校づくりのために、こんな学校がいいな…



地域の方と一緒に
全校で食べる
給食(カフェテ
リアのようなラ
ンチルーム)



ランチルーム

様々なニーズに対
応できる支援教
室(特別支援・不
登校・心の相談)



地域交流スペース



図書館

他の公共施設との連携
や交流ができる校舎

多目的小ホール



地域探究学習の発表
や地域の方との交流
もできる小ホール

地域の方も利用できる
図書館(音と映像、探究
学習スペース付き)

Q4 学校施設と村内各種施設との連携や有効活用は？

- 1 学校施設と社会教育及び福祉施設との一体的な運用ができれば、児童生徒が利用しやすくなり、住民同士の交流の場ともなります。
→ それぞれの地区の住民が各施設を利用するための公共交通機関(巡回バス、デマンドタクシー等)を再整備する必要があります。
- 2 距離が離れている施設とも ICT 機器を使って繋がり、交流できるようになります。
→ オンラインによる住民同士の交流が活性化されることも期待できます。
- 3 地域高校や各種団体との連携交流が容易になり、ますます多様な人との関わりや体験活動を学ぶことが可能になります。

阿智村教育委員会学校教育係 (担当) 学校教育専門主事 松澤 徹
(電話) 0265-45-1231 (FAX) 0265-45-2126 (E-mail) kyoiku@vill.achi.lg.jp